

特集 大溝藩開藩・大溝祭400年

〜400年の伝承を引き継いで〜

図文化財課 ④(32) 4467



皆さんは、現在の高島市民病院近くに、江戸時代、高島市南部一帯の領主であった分部氏の館があったことを知っていますか？

今年、大溝藩主・分部氏が、前任地の伊勢上野(三重県津市)から高島市の大溝の地に移ってきて、ちょうど400年が経つという節目の年にあたります。

「大溝祭400周年記念事業実行委員会」は、平成29年の秋、大溝祭への熱い思いをもった若手が核となり、結成された組織です。そこで、大溝の水辺景観まちづくり協議会事務局の上田さんが、実行委員の熱い思いをインタビューしました。

次の100年につなぐための3つの柱

上田 予定されている主な記念事業内容について、教えてください。ただですか？

石倉 400周年の記念事業として、3つの柱―「伝統文化の継承事業」、「記念事業」、「昔の賑わいを取り戻す事業」―を立ち上げました。まず「伝統文化の継承事業」では、今の大溝祭をデジタルで記録に残すためのDVD作成を予定しています。

垣貫 「記念事業」としては、オリジナル木札や手ぬぐいの作成、さらに400周年限定の日本酒や二万石まんじゅうも地元元の商店の協力を得て、販売できる予定です。また、曳山の曳き手ボランティアに着ていただく法被も企画中です。

林 邦茂 「昔の賑わいを取り戻す事業」では甲賀市の「水口岡山城の会」からお城パルーンをお借りして設置します。水口岡山城は、大溝城の天守が解体された後、その部材の一部を再利用して築城した

と伝えられていて、大溝とは大変ゆかりのあるお城です。5月3日、4日に登場する予定です。

石倉 また、日吉神社の境内と大溝陣屋総門前には、祭りを見学するための棧敷席を設置します。

上田 ところで、メンバーの山田さんは、400年目の大溝祭で「宰領(神輿渡御の総責任者)」という大きな役を担われるそうですね。どんなお気持ちですか？

山田 心地よいプレッシャーがあります。あと、宰領は当日は神輿渡御についていくので、曳山を曳く皆とは離れてしまいますが、頑張ります。

上田 最後に一言お願いします！

400周年の幕開けに

田中 この400周年をきっかけに、大溝祭だけでなく、大溝の良いところを、多くの皆さんに知ってもらいたいと思っています。われわれ地元住民は、この機会に大溝祭の歴史や価値を再認識し、地域への誇りや愛着心を高めていかなければ、と思っています。皆さん、ぜひ見に来てくださーい！

上田 まずは実行委員長 田中さんに お聞きします。この実行委員会はどういった思いで結成されたのでしょうか？



聞き手 上田 未来さん

田中 一番のきっかけは、400周年を起点にして、次の100年に今の大溝祭を継承していきたい、という思いです。報告書などで調べると、70〜80年前と現在の大溝祭では、いろいろな点で違いがあるようなのです。でも、それを知っている人は、もうほ

とにかく今、何かやらんとあかん誇りを守るために

林 正浩 僕が小さい時の大溝祭は、もっと人がいっぱいいて賑やかでした。それが年々小さくなっていくことが、ただ寂しいです。よその祭りに人がたくさん集まっているのを見ても「大溝祭の方がすごいのに…」という思いがあります。

これからは、地元の人の大溝祭への誇りや、担い手であるという自覚の火を消さないようにしないとイケない。400周年記念事業は、そのため のいい機会だと思います。



副委員長 林 正浩さん

とんどいません。このままでは、今後も祭りがどんどん簡素化されていくんじゃないかという危機感があります。「とにかく今、何かやらんとあかん」という気持ちです。



実行委員長 田中 康彦さん

上田 副委員長の林さんはどうですか？

垣貫 弘 廣坂 吉憲 山田 篤志 林 邦茂 西川 五左夫



大溝祭400周年記念事業実行委員会のメンバー ※敬称略

林 正浩

田中 康彦

石倉 和幸



新春 2019年 大溝400年 すごろく

サイコロ付き

※コマは、ご自身で
ご準備ください

5 日吉神社

宝永元年(1704)
このころ、大溝祭に曳山
が登場した記録が残る
その後「すすき山」「殺
生石山」「役の行者」な
どの名のついた曳山も登
場する

寛文6年(1666)
大溝酒造仲間十六株が成
立する
【この後、醸造業が盛ん
となる もう一度
サイコロを振る】

4

寛文2年(1662)
大地震により、大溝領内で1022軒
が倒壊、死者約30人を出す
【市内各地でも甚大な
被害 一つ戻る】

6

延享4年(1747)
大溝城下で大火、
大溝6町170軒
が焼失する
【城下で甚大な
被害 一つ戻る】

昭和49年(1974)
昭和42年に着工し
た国鉄湖西線開通、
近江高島駅が開業

15

昭和16年(1941)
第四高等学校ボ
ート部員17人が萩
の浜沖で遭難する
66日間にわたる
捜索が行われる
【捜索が難航
1回休み】

3

正保3年(1646)
2代藩主・分部嘉治が領
内の上小川村で塾を開いて
いた中江与右衛門(藤樹)
と面会する

7

宝暦5年(1755)
現存する大溝陣屋
総門が建てられる
大溝陣屋は、藩主の居宅で
あると同時に政府でもあり、
内縁の外側には武家屋敷が配置された

大溝陣屋総門

大溝祭り曳山

18

平成8年(1996)
本町通りの古民家を活用した
「びれっぴ1号館」が開業
その後も新たな開業が続く

びれっぴ1号館

17

昭和58年(1983)
大溝祭が滋賀県選択無形
民俗文化財となる

16

江若鉄道大溝駅の開業

14

昭和2年(1927)
大溝町立実科高等女学校が開校する
江若鉄道が大溝まで延長される
大溝駅が開業した12月25日には、滋賀県知
事も出席して、盛大な開通祝賀会が開かれる
【高島郡に初めて鉄道が通る 二つ進む】

2

藤樹書院跡

8

天明5年(1785)
8代藩主・分部光実が郭内に藩校・脩身
堂を設立し、教導に中村徳勝を任命する
藩士の子弟は、8歳になると必ず入学
することが決められる
【勉強のため1回休み】

19

大溝の水辺景観

平成27年(2015)
「大溝の水辺景観」が
国の重要文化的景観に
選定される
同年、重要文化的景観を
活かしたまちづくりを
推進する「大溝の水辺
景観まちづくり協
議会」が設立、大
溝陣屋総門内に事
務局を置く

13

大正12年(1923)
大溝に湖西自動車株
式会社が設立され、
営業を開始する

12

明治2年(1869)
17代藩主・分部光貞
が版籍を奉還し、大溝
藩知事となる

1

元和5年(1619)
分部光信が大溝藩2万石の
初代藩主となる
織田信澄が築いた大溝城跡の西北
に陣屋を構え、城下町の整備を進
める
【2万石をもらおう、一つ進む】

9

寛政3年(1791)
光実、大俣約令を公布し
て藩政改革に着手する

【改革が進む、
一つ進む】

10

文政7年(1824)
大溝藩士・前田梅園が地誌
『鴻溝録』三巻を著す

11

近藤重蔵の墓

文政9年(1826)
10代藩主・分部光寧が
近藤重蔵の預かりを命じ
られ、翌年、重蔵が大溝
に引き移される
重蔵は藩士と親交を深
め、『江州本草』30巻
を著す

スタート

江戸時代、高島市勝野を拠点とした大溝藩の始まりは、元和5年(1619)に伊勢国上野(現在の三重県津市)を本拠としていた分部光信が、大溝藩2万石の領主に任じられたことから始まります。
その時から400年、城下町、交通の要衝、産業の拠点として発展を続けた大溝の歴史をすごろくで紹介いたします。

※このページを取り外してお楽しみください。

キリトリせん

